

○ 船社等との意見交換における独立行政法人航海訓練所に対する評価について

意見交換等の場	主な指摘事項	指摘内容の航海訓練等への反映結果
内航船員養成における即戦力化等に係る検討委員会「内航船員養成における即戦力化等に係る提言」(平成14年5月)	内航船の実態を考慮し、実地教育の訓練の強化を図るべき。	海員学校の生徒に対して、 ・内海航海等の狭水道航海の距離を増やした。 ・対景図を基に著名な物標等を予習復習できる自学自習パソコンソフト等を活用することとした。 ・内海航海における出入港の回数を増やすことにより、出入港作業等の機会を増やした。 (平成13年度から実施)
	遠洋区域を目的とした長期の外国航海を、内航船員に相応しい、より効果的なものに改めるべき。	海員学校の生徒に対して、ハワイ方面への航海を、本邦近隣海域への航海に変更し、内海航海の充実を図った。(平成14年度から実施)
内航海運組合総連合会との意見交換(平成13年度から5回開催している。)	甲板部・機関部における各種作業の訓練を充実してほしい。	甲板部における錆打ち、ワイヤーロープの作業等、機関部における溶接、バルブ整備の作業等について、実習生1人が実習期間中に行える回数について、数回程度だったものを2～3倍程度にしていくなど可能な限り実施できるようにした。(平成15年度から実施)
航海訓練所での訓練を修了し入社した者を中心とした外航船社(大手3社)との意見交換会(平成13年度から3回開催している。)	・海事英語教育の強化を図ってほしい。 ・IMOが規定する海事標準連絡用語集の英語を難なく使えるよう習得してほしい。 ・外地ドックにおけるミーティング時等に対応できる英語力を身につけてほしい。 ・外国人船員との船内での円滑なコミュニケーションを図るための英語を習得してほしい。	・外国の海事大学の学生をアシスタントアドバイザーとして練習船に乗船させ、海事英語訓練を実施(平成14年度から実施) ・海事英語訓練に関する手法を改善するとともに、航海・機関における当直場面や整備作業において想定される様々なシナリオをベースとした英語教材を整備した。(平成16年度から実施)
	幅狭海域や視界制限状態での操船経験をもっと積ませてほしい。	・シミュレータを使用した訓練を取り入れた。 ・運航要員の指導のもとで、操船させる実習の機会を増やした。(平成15年度から実施)
	練習船での整備実務に関する実習を充実してほしい。	甲板部における錆打ち、ワイヤーロープの作業等、機関部における溶接、バルブ整備の作業等について、実習生1人が実習期間中に行える回数について、数回程度だったものを2～3倍程度にしていくなど可能な限り実施できるようにした。(平成15年度から実施)
	基本・安全を体感させ、安全管理能力・危険予知能力を身につけさせてほしい。	国際安全基準(ISMコード)等の項目をカリキュラムに取り入れるとともに(平成16年度から実施)、練習船における安全衛生活動に参加させた(平成13年度から実施)。